

中世後期の九条家家僕と九条家領莊園 九条政基・尚経期を中心に 廣田浩治

The Later Middle Ages Kujo Family's Servants and Kujo Family's Shoen

はじめに

- ① 中世後期の九条家家僕の構成
- ② 中世後期の九条家領と関連所領
- ③ 家領莊園の支配における家僕の役割
- ④ 家門の下向・直務支配と家僕
おわりに

【論文概要】

公家権門の家領を支配する担い手に、家僕を中心とする家政機構がある。中世後期の九条家の家僕は、「御番衆中」「境内沙汰人」などといわれ、諸大夫級と侍身分の家僕から成る。中世前期以来の家司が脱落する過程で、九条家家門との主従関係を強めた家僕が残り、家門が侍身分の家僕までも直接統括する体制に変質した。家門と家僕の関係は家と家の関係という性格が強まり、中世後期の九条家家僕の構成は九条政基・尚経期に一定の確立をみた。

中世後期の九条家領莊園といえば日根莊がよく知られる。が、同家領はそれだけでなく、畿内・西国に複数存在し、また九条家関係の寺院の所領も畿内・西国に広がり、所領支配の面で九条家への依存度を強めた。特に寺院所領の錯綜する東九条御領（境内）では九条家「本役」賦課体制をとり、寺院所領の家領化が進んだ。家領支配に当たっては諸大夫級の家僕が奉行、侍身分の家僕は主に上使に任じた。

中世後期の九条家は家僕編成の主従制を強化したが、地域領主化したのではなく、公家権門として家僕の莊務を基盤に複数所領の収納維持を志向したのである。

当該期の莊園支配の本質はあらゆる手段を講じてできるだけ多くの収納を実現することにある。このため奉行・上使はしばしば家領に下向し、代官・在地勢力の離反を防ぎ、「案内者」を起用して莊務の協力者とした。家僕相互にも莊務遂行の下向経費捻出や給分保障の点で依存関係があり、これが家領相互の並行支配を支えた。また家僕には金錢の「秘計」「引替」の能力も求められた。日根莊のように家門が下向して直務支配を行う場合には、家門と複数の家僕（奉行・上使）による支配機構が整備される。政基の日根莊支配は複数の家僕に支えられ、また家門一家僕の主従関係は莊内の寺僧などにも広げられた。政基の支配は京都東九条の尚経を頂点とする他の家領支配とも関連しており、孤立したものではなかつた。

中世後期の九条家は家僕編成の主従制を強化したが、地域領主化したのではなく、公家権門として家僕の莊務を基盤に複数所領の収納維持を志向したのである。